自彊前進

題字　西村直子

NO．８　令和５年５月２日（火）
新潟大学附属新潟中学校　学校だより
文責　教頭

※　自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと
（校歌３番の文言から）

すなやま完歩大会のコースについて

すなやま完歩大会まであと１０日となりました。今回は保護者の参加もあり、現在参加を募っているところです。

前号でも紹介しましたが、この行事が始まった当初は、生徒をバスで内野、越前浜、角田浜まで輸送し、そこから学校を目指して砂浜を歩いて戻ってくるというコースでした。その後、最長コースが間瀬海岸からの出発となり、平成１８年には挑戦コースを間瀬～日本海タワー～学校とし、距離にして 42, 195ｋｍ、フルマラソンと同じ距離設定でした。男女問わず、多くの先輩たちが体力の限界にチャレンジしたのを覚えています。

その後、海岸の浸食等で砂浜を歩けない箇所があまりにも増え、一般道を歩かざるを得なくなり、安全管理が難しくなったこと等を理由に、コースを変更せざるを得なくなりました。その後、ウイルス禍で大会自体の開催を自粛しなければならなくなりました。そんな中、「この行事を復活させたい！」という先輩たちの熱い声で復活したこの行事、コース設定も一新し、小針浜や五十嵐浜を折り返し、新潟島から湊トンネルを通るという素晴らしいコースを生徒たちで設定しました。

「にいがた」という名前の由来を知っていますか？昔、信濃川と阿賀野川は合流し、日本海に注いでいました。当時の川幅は広く、現在のやすらぎ堤の辺りは当時の１／３の広さで、川の中に複数の中州（なかす）が形成されていました。その中で「新しい潟（沼地）が形成されたこと」にちなんで、新潟となったようです。附属新潟中学校があるこの地も、関屋分水の通水により、「島」となりました。昨年度は関屋分水通水５０周年記念の年でした。

また海岸線には膨大な数の松の木が植えられています。これは江戸幕府末期に長岡領だった新潟湊が上知（あげち）され、天領（幕府領）となり、川村修就（かわむらながたか）という人物が新潟奉行として派遣されました。川村は新潟湊の発展に大きく寄与し、風の強いこの地の海岸線に、防砂林として約三万本の松の木を植樹しました。川村修就の像は、コース最終盤であるゴール目前の母の森の敷地内にあります。

また、コース終盤の湊トンネルは、信濃川の川底を横断し、中央区と東区をつなぐトンネルです。全国で数か所しかない海底トンネルで、歩車分離式となっており、車の排気ガスを気にせず、歩行が可能です。夏は涼しく、冬は暖かいことから、季節を問わず、老若男女問わず多くの人が散歩やランニングを楽しんでいます。

このように、先輩が実際に歩いて設定したコースは、新潟市の歴史や文化を満喫できる素晴らしいコースになっています。中央区から西区、東区にまたがっており、日本一の大河である信濃川の上、横、下を通るといった面白いコースです。長い距離を歩くことは決して楽ではありません。前号でも紹介したように、『「自主独立」は、自ら歩く行為によって始まり』ます。しかしながら、終盤の苦しい時、あなたは一人じゃありません。互いに励まし合える仲間がいます。ゴール目指し粘り強く頑張ろう！